

北区コミュニケーション・モア 7月例会

中途失聴・難聴者のコミュニケーション ースキルを磨いて豊かな人間関係を築こう



国際医療福祉大学三田病院 耳鼻咽喉科
言語聴覚士 久保田 江里 氏

7月16日(日)10時～11時50分、赤羽文化センター第一学習室Aにおいて、国際医療福祉大学三田病院耳鼻咽喉科で勤務されている久保田江里氏(言語聴覚士)をお招きし、「中途失聴・難聴者のコミュニケーション」について、ご講演いただきました。会員23名、非会員8名、合わせて31名の方にご参加いただきました。



★自分のきこえを活用し、やりたいことをやるには、どうしたらいいか。

自分の能力と周囲の資源を最大限活用することが大切。その人が元々持っている能力を活用する力がスキル。スキルは練習や経験を積み重ねて獲得できる。周囲の資源とは、医師・病院スタッフ、言語聴覚士、認定補聴器技能者、補聴器販売店、意思疎通支援専門員、地域資源(社会福祉協議会、区役所、障害者手帳の活用等)、補聴援助システム、スピーカー、文字アプリ等、聞こえを補う機器などのこと。最大限に活用しよう。

★スキル1…自分のきこえを知ろう

難聴の原因は何か、音の伝わり方、内耳や有毛細胞のはたらきを理解しよう。難聴遺伝子の種類により、どの部分が原因で難聴になったのかわかるようになった。その結果、補聴器や人工内耳の有効性、聴力の変化等、治療法や予後への情報を得ることができる。2015年7月から「若年発症型両側性感音難聴」が指定難病に追加された。正しい聴力検査のやり方ができているか。聞こえている間はボタンを押し続けること。耳鳴りと混じって分かりにくかったら検査者に伝えよう。語音聴力検査も自信がなくても聞こえた通りに言うこと。検査結果のグラフの読み方も知っておこう。

★スキル2…リハビリテーション方法を知る

リハビリ方法は、好きな方法で無理なくできるもの、自分に合った方法が一番良い。そして毎日続けることが大切。テレビ・ラジオのニュースを聞こう。字幕は一度消してみて。アナウンサーの口形と音声で内容を想像するのも訓練の一つ。できるだけ速く音読をすることも大事なりハビリ。速く音読することで脳の処理スピードを上げることができる。また、相手の話を聞くときに必要な能力(ワーキングメモリー)の強化やフィードバック・ループの活用(自分の声を聴きながら考えたり声の大きさを調整する、言い間違いを修正する等)にも繋がる。

★スキル3…きこえの活用方法を知る

①聴覚補償(きこえをしっかり補う=補聴器、人工内耳) ②よりよく聞こえる状態を探す/作り出す③ききとりの邪魔のなるものを避ける。④日本語の知識を活用する。